



帝京大学小学校だより

1年間を振り返って

帝京大学小学校 校長 石井 卓之

コロナ感染症の休校措置のために、入学式や始業式がリアルで行えない異例の新学期で始まった2020年度は、残すところ約1ヶ月となりました。保護者の皆様のご理解と協力をいただき、帝京大学小学校では学びを止めることなくこの年度末を迎えることができました。また、各学年で学ぶべき内容も概ね終えることができました。心より感謝申し上げます。特に、6年生は卒業に向けての活動や修学旅行など、できないことの多い1年間でした。

緊急事態宣言が解除される地区もありそうな実態を踏まえつつ、後援会のご協力を得ながら、安心・安全を確保した修学旅行に替わる体験を3月3日(水)に実施いたします。京王観光に尽力いただき、本校だけでJALの飛行機1機(先日事故を起こしたエンジン搭載機は現在運行していません)を貸し切りにして、羽田空港近辺を約1時間フライトしながらCAのお仕事体験をするなど、特別なメニューを行います。また、3月8日(月)には、よみうりランドでの卒業遠足を実施いたします。この卒業遠足は、6先生の代表数名が校長室に来て、是非行わせてほしいとの要望から実現した企画です。自分たちで目標を設定し、協力して卒業への思い出づくりをすることは、「自分の頭で考え・行動する」すばらしい取り組みと高く評価しています。当日の引率がとても楽しみです。

着任してからこの1年間、子どもたちには「自分の頭で考える」ことの重要性について機会ある毎に話をしてきました。避難訓練では、「自分の命を守るためには何が必要だろうか」「出火場所は何処で、どんな経路で避難すればよいか」を。全校朝会では、「いつも多数決で決めるのではなく、WIN-WINを見付け出せる話合いをしましょう」と。

新年度は新たな学校経営方針のもと、今までになかった取り組みを行い「キラッと光る個性」を伸ばしていきます。

オーストラリアとの交流

コロナ禍で整備が進んだICT機器を活用し、6年生はオーストラリアの小学校とZOOMを使った交流を行いました。低学年担当のネイティブティーチャー、マリア先生に知り合いのオーストラリアの学校に繋げていただき実現することができました。日本とオーストラリアとの時差は1時間なので、録画ではなくリアルタイムで行うことができました。今回は、各教室のタブレット端末から代表者が話し、先方からも話をしてもらうという形式で進めました。説明しながら関係のある写真を説明者の後ろで提示したので、様子がよく伝わったようでした。リアルタイムなのでリアクションもあり、和気あいあいと活動が進みました。今回が初めての試みでしたので改善点はありますが、さらに工夫をしていくと本校の特色ある教育活動になっていくものと感じました。

英語検定は身に付いた英語力を確認する指標の一つですが、より子どもたち一人一人が実感できる場を設定することも必要です。そこで、来年度は6年生が青海にある東京グローバル・ゲートウェイ(英語村)での英会話体験も実施する予定です。学んだ英語を実際に発信する活動を増やしていきます。また、コロナが収束次第、帝京大学の留学生との英会話による交流ができないか、企画を進めています。英語学習のゴールイメージを設定していきます。

